

研究主題「社会的事象を比較・関連付けて考える力を育成する学習指導の在り方」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
新宿区立天神小学校 教諭 佐藤 晃広

第1 研究のねらい

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月）における社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針には、「社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する」とある。また、小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）第5学年の理解に関する目標には、「産業と国民生活との関連について理解できるようにする」とある。しかし、これまでの指導経験では、学んだ社会的事象を他の社会的事象と関連付けて考えることができない児童が見られた。これは、習得した知識が断片的にしか身に付いておらず、社会的事象を関連付けて考えているとは言えない状況である。また、自分の生活と関連させて社会的事象を考えることについて、身近な事象ではできても、遠隔の地域で起きていることや経験していないことは、資料を基に考えることができない児童が見られた。

現代社会は、特定の社会的事象だけではなく、複数の社会的事象の関連によって成り立っており、国民の生活は国土の環境や産業の発展と様々な関連がある。このことを考えさせるためには、例えば複数の社会的事象について資料を基に調べたことから、「どのようなことが言えるのか」「今後社会はどのようになるのか」などについて、児童が様々な観点から考えることが必要であると考え、研究主題を設定した。

第2 研究仮説

社会的事象について、既習事項や調べたことを関連的に捉えさせる学習指導を行えば、児童は調べたことを基に情報を総合的に捉え、社会的事象の意味について考えることができるようになるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 社会的事象の意味を考えることにつなげる学習指導

小学校学習指導要領解説社会編第5学年目標（3）には、各種の基礎的資料を効果的に活用するとある。活用例として、「資料から必要な情報を読み取る。」「資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。」「複数の資料を関連付けて読み取る。」などが示されている。

社会的事象の意味を考える力を身に付けさせるためには、社会的事象を比較・関連付け、総合して考える学習活動により、社会の状況や社会の今後について考えさせる必要がある。

(2) 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析

東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、必要な情報を正確に取り出し、それらの関係を読み取る力についての課題が明らかとなっている。過去の調査の正答率は、45.1%（平成24年度実施）、54.1%（平成25年度実施）、53.2%（平成26年度実施）であった。この調査について、東京都教育委員会は、平成26年度の調査実施後の結果分析から、取り出した情報同士を比較したり関連付けたりして思考することに課題があるとしている。この課題を克服するためには、教員の意図的な学習指導の工夫が必要である。

2 調査研究

資料を活用した社会科学習の取組状況や、複数の社会的事象を比較・関連付けて考えさせる学習活動、また、それらの学習に対する意識について質問紙を用い調査した。有効回答者は、都内公立小学校第5学年児童 239 人、都内公立小学校第5学年指導経験教員 44 人である。

産業と国民生活の関連について、児童の理解状況を把握する調査では、「生産者が様々な工夫や努力をしていること」「米作りが人々の努力と関連があること」について、85%を超える児童が分かったと回答し、肯定的に捉えていることが分かった。一方、教員に対する調査項目の「児童は根拠に基づいて考えているか」の問いに対しては、23%の教員が肯定的とは言い難い見方をしていた。また、「児童は産業と自分の生活との関連を考えようとしているか」の問いに対しては、32%の教員が肯定的とは言い難い見方をしていた。このことから、児童と教員の意識の違いがあることが分かった。また、教員の 80%が社会的事象を関連付けた指導を意識していると回答しているが、教員による児童の見取りからは、複数の社会的事象を関連付けて社会の状況を考える力が十分に身に付いていないと考えられる。

3 開発研究

(1) 関連的に捉えさせる社会的事象の明確化を図った教材構造図

指導計画を作成する際、どのような資料を用い指導計画を立てるのかを考えていく必要がある。本研究では、一単位時間ごとに習得する知識のまとまりを基本的事項と位置付け、それらを総合させた知識を単元の終末に習得する概念的知識とし、到達目標とした(図1)。

社会科の目標と概念的知識とは関係があることから、指導する社会的事象の内容を明確にする必要がある。本研究における基本的事項は、既習の農業や水産業の小単元における学習内容を踏まえ考える必要があるため、検証授業において新たに学ぶ社会的事象との関連で作成した。

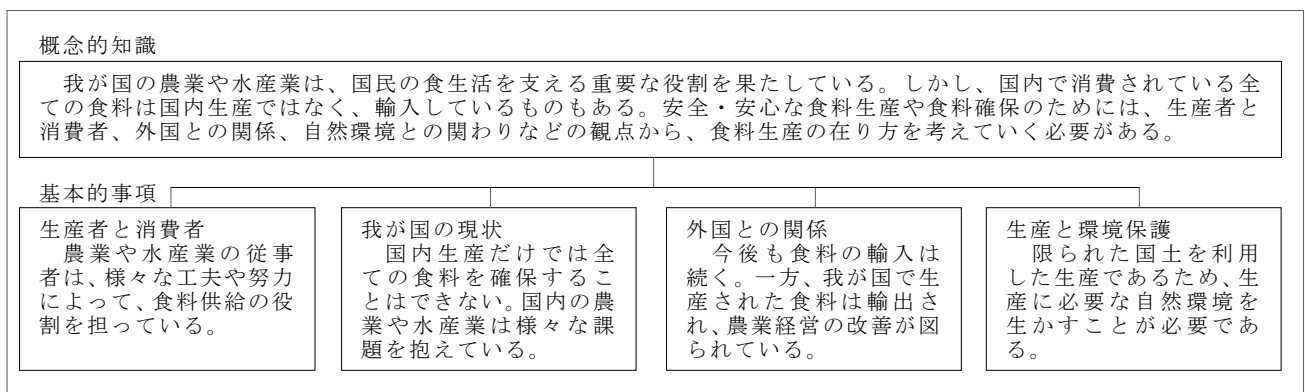


図1 教材構造図の一部

(2) 指導計画に位置付ける比較・関連付け、総合する学習活動

本研究では、児童に捉えさせる社会的事象を明確にし、それらを比較したり関連付けたりすることで現代社会の状況を理解させ、社会的事象の意味を考える力の伸長をねらいとした。指導の段階は、比較する・関

区分	目的
比較する	資料を比べることから社会的事象の相違点や共通点を把握する。
関連付ける	比較によって分かったことから、複数の社会的事象を関連付けて考える。
総合する	分かったことをまとめ、社会状況の理解につなげる。

表1 比較・関連付け・総合して考える学習段階

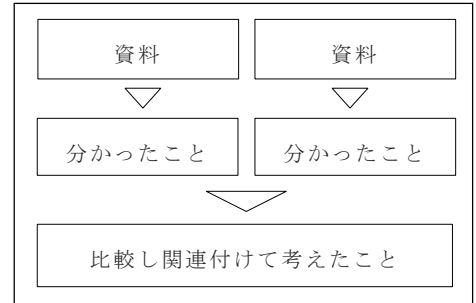
連付ける・総合する学習（表1）とし、それぞれを基本的事項の理解に到達できるように指導計画の中に段階的に設定した。このことで、社会的事象を把握し、調べたことを整理でき、単元の終末に習得した知識を基に社会的事象の意味を考えやすくと考えた。

(3) 社会的事象を関連的に捉えるワークシート

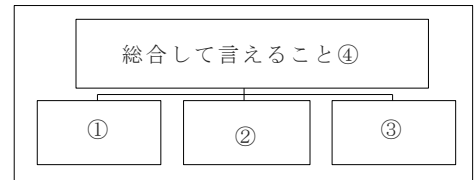
社会的事象について調べた情報を比較したり、関連付けたりすることができるようにするために、ワークシート「情報を比較し関連付ける枠組み(A)」(以下、ワークシートAと表記する。)を用いた。これは、関連のある社会的事象を表す資料を並列に置き、分かることを書き出し、社会的事象の特色や相違点・共通点をつなげて考えることを目的とした。

また、社会的事象について調べた情報を総合して考えることができるようにするために、ワークシート「情報を総合する枠組み(B)」(以下、ワークシートBと表記する。)を用いた。これは、学習した内容を基に学習問題に対する考えを表現することと、単元のまとめを行う際に、調べたことを基に社会的事象の特色や傾向、背景などを根拠として、問い(学習問題やこれからの食料生産)に対する考えをもつことができることを目的とするものである。なお、前出の四つの基本的事項について、我が国の現状と外国との関係は学習内容が似ていることから、これらを一つにし、①②③と分類した。

情報を比較し関連付ける枠組み(A)



情報を総合する枠組み(B)



4 検証授業 第5学年「これからの食料生産とわたしたち」(全6時間)

学習指導計画については表2のとおりである。

(1) 社会的事象を比較・関連付けて考える学習活動の分析

社会的事象を比較・関連付けて考える学習活動は第1時から第5時において行った。

第1時の学習では、既習事項である農業や水産業の学習で習得した知識を基に、農業や水産業と自分たちの暮らしとの関連について考えを書かせた。児童が記述した内容は、「生産者がいるから食事ができる」「自然が豊かだから野菜が育つ」など、社会的事象が生じる条件や因果関係から考えている内容ではなかった。

その後、児童に新たな資料を提示し、情報を読み取らせて、食生活の変化と食料の需給との関係を考えさせた。児童は、昭和40年度、昭和55年度、平成24年度と時代が移る中で食生活が和食から洋食へと変化していく様子を捉えた。この分かったことに対し、新たに食料の需給関係を表したグラフを示し、食料の輸入が増えていく理由を考えさせると、食料需給の変化は食生活の洋食化と関係していることを捉えていた。このことは、複数の事実から生じる社会的事象の意味を捉えたものと考えられることができる。

時	児童に捉えさせる主な社会的事象	考える枠組み
1	<ul style="list-style-type: none"> ■我が国の農業や水産業の従事者が国民生活を支えていること ■和食から洋食への食生活の変化 	「比較する」
2	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの食料を輸入している状況 ■食料の輸入と輸出の各国比較 	「比較する」 「関連付ける」
3	<ul style="list-style-type: none"> ■我が国の食料の中には、輸入に頼らなければならない食料があること ■土地利用の変化、我が国の農業の生産状況 	「関連付ける」
4	<ul style="list-style-type: none"> ■我が国の食料自給の状況 ■我が国の農業経営の改善の状況 	「関連付ける」
5	<ul style="list-style-type: none"> ■自然環境を守る努力を国民の運動として必要としていること 	「関連付ける」
6	<ul style="list-style-type: none"> ■農業や水産業で働く人と自分たちの生活 ■食料生産と環境 	「総合する」

表2 学習指導計画(抜粋)

第5時の学習では、ワークシートAを使用した。ここでは、生産者が行う自然環境を保護する活動と、森林や河川が農林水産業に与える影響を関連付け、原因と結果から考えさせた。この結果、食料生産には自然環境を守り、維持する人々の自然環境を保護する活動が欠かせないとの考えをもつようになった児童が見られた(図2)。このことから、一つの

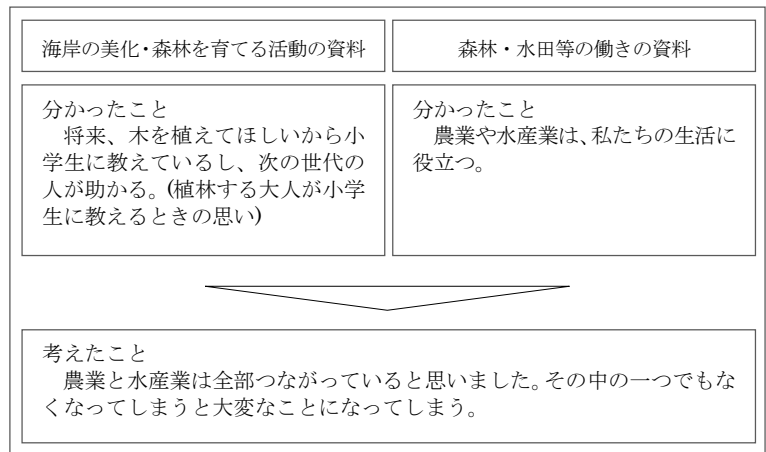


図2 児童の記述

社会的事象が我が国の食料生産に影響を与えているのではなく、人々の食生活の変化や自然を生かした生産などの複数の社会的事象が関連することによって農業や水産業が成り立ち、我が国の食料生産が維持されていることを理解していると考えることができる。

(2) 情報を総合し考える学習活動の分析

第6時の学習では、ワークシートBを使用し、「これからの食料生産に対する考え」を書く学習活動を行った。まず、学習した基本的事項(図1)の内容をワークシートBの①生産者と消費者、②国内生産される食料と輸入される食料、③食料生産と自然環境の大切さに区分して書いた後、これらを総合した考えを④に書いた。この学習活動では、自然環境を守ることが農業や水産業を守ることにつながることや、国内生産される食料の消費量を増やし、農業や水産業に従事する人が増えるようにするなどの内容が書かれていた(図3)。

このことから、自分の生活が産業と関わっていることや、環境が食料生産に欠かせない条件となっていることを理解していると考えることができる。

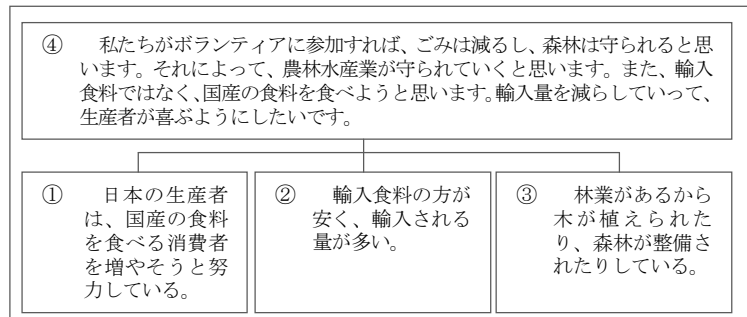


図3 児童の記述

- (1) 資料を比較したり関連付けたりする学習活動を設定したことで、児童は社会的事象が生じる原因や、社会的事象が私たちの生活に影響することを考えていた。
- (2) 考える学習を段階的に設定し、指導したことで、児童は分かったことを総合することができ、国土の環境と国民生活や産業と国民生活を結び付けて考えることができた。このことは、社会的事象の意味を考えることにつながった。

第5 今後の課題

- (1) 社会的事象の意味について考える力を育成するために、資料から読み取った情報を根拠として自分の考えを表現させる指導を行うとともに、具体的知識を一般化する学習指導を意図的・計画的に行う。
- (2) 他の学習単元においても本研究の手だてを活用し、検証していく。